

巻 頭 言

独立行政法人理化学研究所
播磨研究所長 藤嶋 信夫



2007年はSPring-8にとって大きな節目の年となりました。1997年10月に供用を開始したSPring-8が、10周年を迎えたからです。10月19日には姫路市内のホテルにてSPring-8供用開始10周年記念式典、翌20日には播磨科学公園都市にて記念シンポジウムを開催し、海外からを含む多くの関係者が一堂に会し、共に祝い、当時の苦労話に花を咲かせました。

SPring-8が供用を開始した10年前、放射光はまだまだアカデミックのごく一部の人のための特殊な技術であるという認識をされていたように思います。それが現在では、アカデミックな利用はもとより、産業利用においても非常に広範な分野で利用されています。2007年度の年間

利用者数は延べ1万4千人を超え、そのバックグラウンドも大学生から企業の研究者まで多岐にわたっています。SPring-8が歩んできた10年は、放射光が広く普及した10年であり、我が国初の大型共用施設としてSPring-8が果たした役割は非常に大きかったと思います。このように放射光が広く当たり前の技術として利用されることに成功した背景には、SPring-8運営の実務を担って頂いている財団法人高輝度光科学研究センター（JASRI）を始めとする多くの関係者の方々の、ご苦勞、ご尽力の賜物だと認識しております。施設者を代表して改めて感謝の意を表します。

SPring-8が影響を与えたのは、日本国内に限りません。真空封止型アンジュレーターを始めとするSPring-8で培われた特筆すべき技術は、SPring-8以前と以後の世界中の放射光施設のあり方を変えてしまいました。SPring-8完成以後に世界各地で建設された、もしくは建設中の最新鋭の中型放射光施設では、これらの技術が必要不可欠なものになっていると聞きます。またSPring-8キャンパスでは、現在理研-JASRIの共同プロジェクトチームによるX線自由電子レーザー（XFEL）施設の建設が進められております。国家基幹技術の1つとして2006年に開始したこのプロジェクトは、2010年度の施設完成に向けて現在順調に進捗しております。2007年は全長700mの建屋の建設が始まり、播磨科学公園都市『光都』の青空の下で大型重機が、連日力強く稼働しております。そしてXFELの研究開発の現場では、SPring-8で培われた技術、蓄積された経験が、百戦錬磨のスペシャリストから若い技術者へ伝承されています。

XFEL施設は、SPring-8と同様に完成後は大型共用施設として稼働予定です。SPring-8との相乗効果を含めて、SPring-8キャンパスはフォトンサイエンスのCOEとして、世界でも大変ユニークで画期的な展開ができるものと信じております。今後とも皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。